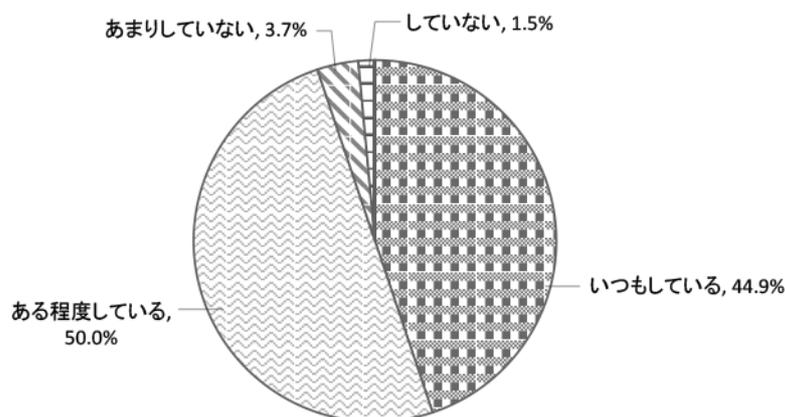


【廃棄物対策の推進について】

問28 北九州市では、ごみを減らす取組として、市民・事業者等による3R活動（リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化））などを推進し、持続可能な循環型社会づくりに取り組んでいます。そこで、おたずねします。

問28-1 あなたは、日常生活の中で、マイ箸・マイバッグを持参する、家庭ごみをこまめに分別してリサイクルに努力するなど、ごみを減らすための取組を行っていますか。



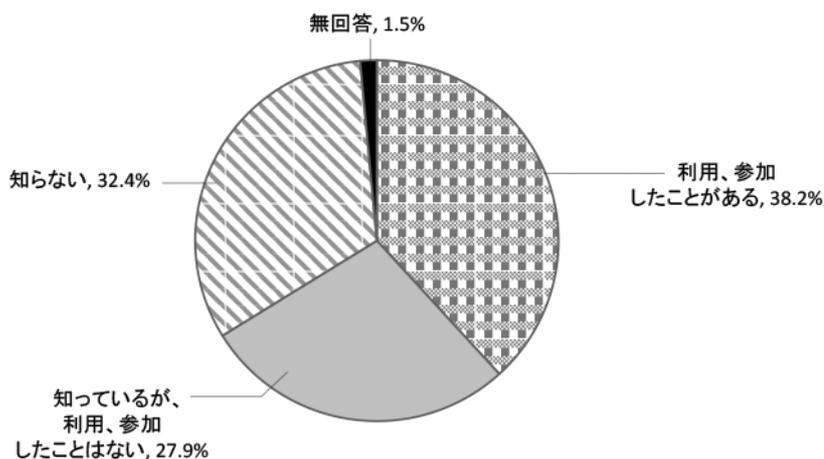
		サンプル数	いつもしている	ある程度している	あまりしていない	していない	わからない	無回答
全体		136	44.9%	50.0%	3.7%	1.5%	0.0%	0.0%
性別	男性	59	40.7%	49.2%	6.8%	3.4%	0.0%	0.0%
	女性	77	48.1%	50.6%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11	27.3%	54.5%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%
	30歳代	20	35.0%	60.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	21	38.1%	61.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	21	42.9%	47.6%	4.8%	4.8%	0.0%	0.0%
	60歳代	27	55.6%	40.7%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	35	54.3%	42.9%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26	30.8%	57.7%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	26	46.2%	50.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
	若松区	13	38.5%	61.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	34	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11	36.4%	54.5%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%

日常生活の中で、マイ箸・マイバッグを持参する、家庭ごみをこまめに分別してリサイクルに努力するなど、ごみを減らすための取組を行っているかについては、「いつもしている」（44.9%）と「ある程度している」（50.0%）をあわせた94.9%が「している」との回答であった。

【環境教育や環境学習について】

問29 北九州市では、『世界の環境首都』を目指す取組の一つとして、学校や家庭、地域など、さまざまな機会・場での環境教育や環境学習の充実に取り組んでいます。そこで、おたずねします。

問29-1 あなたは、環境ミュージアム、エコタウンセンターなどの環境学習施設の利用や、毎年10月に行われるエコライフステージなどの環境イベントに参加したことがありますか。



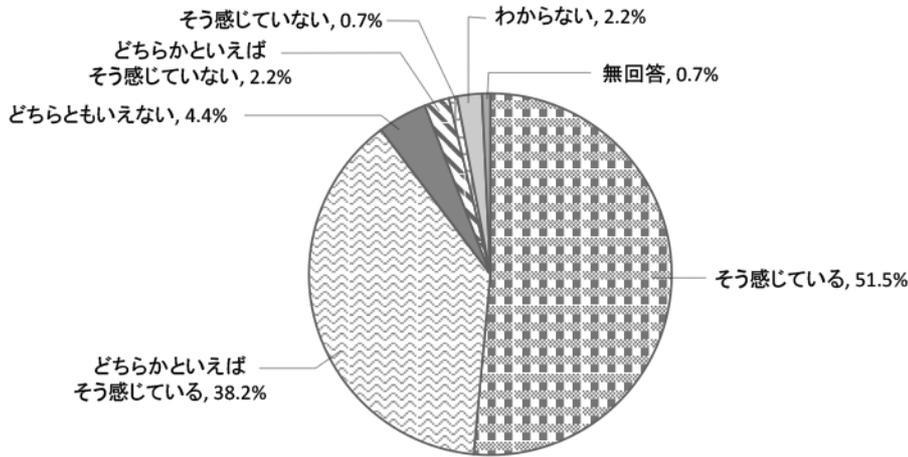
		サンプル数	利用、参加したことがある	知っているが、利用、参加したことはない	知らない	無回答
全体		136	38.2%	27.9%	32.4%	1.5%
性別	男性	59	33.9%	27.1%	35.6%	3.4%
	女性	77	41.6%	28.6%	29.9%	0.0%
年齢別	10歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11	36.4%	9.1%	54.5%	0.0%
	30歳代	20	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%
	40歳代	21	52.4%	9.5%	33.3%	4.8%
	50歳代	21	33.3%	28.6%	38.1%	0.0%
	60歳代	27	29.6%	51.9%	14.8%	3.7%
	70歳以上	35	37.1%	31.4%	31.4%	0.0%
区別	門司区	14	42.9%	35.7%	21.4%	0.0%
	小倉北区	26	38.5%	26.9%	34.6%	0.0%
	小倉南区	26	46.2%	30.8%	23.1%	0.0%
	若松区	13	23.1%	30.8%	46.2%	0.0%
	八幡東区	12	58.3%	33.3%	0.0%	8.3%
	八幡西区	34	29.4%	26.5%	44.1%	0.0%
	戸畑区	11	36.4%	9.1%	45.5%	9.1%

環境学習施設の利用者や環境イベント参加者を含めて、7割弱（66.1%）の人が環境イベントを認知していたが、「利用、参加したことがある」という回答は38.2%に留まっている。

【自然環境について】

問30 北九州市は、大都市でありながら山や海など、多様な自然環境に恵まれており、市ではその適正な保全に努めるとともに市民が自然と触れ合うことができる場を整備しています。そこで、おたずねします。

問30-1 あなたは、北九州市は、身近に自然を感じたり、身近な場所で自然に触れ合うことができるまちだと感じますか。



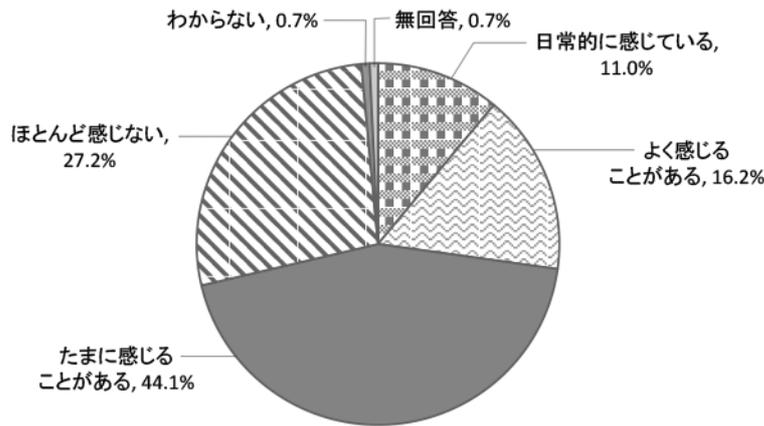
		サンプル数	そう感じている	どちらかといえばそう感じている	どちらともいえない	どちらかといえばそう感じていない	そう感じていない	わからない	無回答
全体		136	51.5%	38.2%	4.4%	2.2%	0.7%	2.2%	0.7%
性別	男性	59	45.8%	39.0%	3.4%	3.4%	1.7%	5.1%	1.7%
	女性	77	55.8%	37.7%	5.2%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11	63.6%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	20	60.0%	15.0%	10.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%
	40歳代	21	28.6%	66.7%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%
	50歳代	21	38.1%	52.4%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	27	51.9%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%
	70歳以上	35	62.9%	25.7%	2.9%	2.9%	0.0%	5.7%	0.0%
区別	門司区	14	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26	61.5%	26.9%	3.8%	3.8%	0.0%	3.8%	0.0%
	小倉南区	26	50.0%	38.5%	7.7%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	13	61.5%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%
	八幡東区	12	50.0%	41.7%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	34	47.1%	44.1%	2.9%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%
	戸畑区	11	27.3%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%

身近に自然を感じたり、身近な場所で自然に触れ合うことができるまちだと感じるかについては、「そう感じている」(51.5%)が最も多く、次いで「どちらかといえばそう感じている」(38.2%)となっており、9割弱(89.7%)の人が肯定的な回答であった。

【身近な生活環境の保全について】

問3 1 北九州市では、大気汚染や水質汚濁、騒音、振動などに対し、法律に基づいた取組を徹底するとともに、自動車からの排気ガスや騒音問題の改善に向けた対策を進めています。そこで、おたずねします。

問3 1-1 あなたは、日頃の生活の中で、大気汚染、騒音、悪臭などに関して、不快に感じることはありますか。



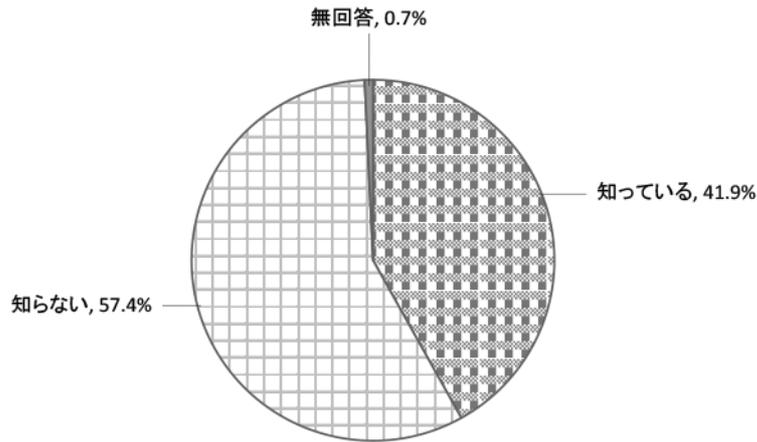
		サンプル数	日常的に感じている	よく感じる	たまに感じる	ほとんど感じない	わからない	無回答
全体		136	11.0%	16.2%	44.1%	27.2%	0.7%	0.7%
性別	男性	59	13.6%	13.6%	33.9%	35.6%	1.7%	1.7%
	女性	77	9.1%	18.2%	51.9%	20.8%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11	9.1%	54.5%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%
	30歳代	20	15.0%	30.0%	25.0%	25.0%	5.0%	0.0%
	40歳代	21	14.3%	4.8%	57.1%	23.8%	0.0%	0.0%
	50歳代	21	9.5%	14.3%	52.4%	23.8%	0.0%	0.0%
	60歳代	27	11.1%	11.1%	44.4%	29.6%	0.0%	3.7%
	70歳以上	35	8.6%	8.6%	48.6%	34.3%	0.0%	0.0%
区別	門司区	14	7.1%	14.3%	35.7%	42.9%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26	11.5%	11.5%	46.2%	30.8%	0.0%	0.0%
	小倉南区	26	15.4%	11.5%	30.8%	38.5%	3.8%	0.0%
	若松区	13	7.7%	7.7%	76.9%	7.7%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12	0.0%	8.3%	58.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	34	8.8%	26.5%	47.1%	17.6%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11	27.3%	27.3%	18.2%	18.2%	0.0%	9.1%

日頃の生活の中で、大気汚染、騒音、悪臭などに関して、不快に感じることはあるかについては、「日常的に感じている」、「よく感じる」、「たまに感じる」を合わせた否定的な回答が71.3%で「ほとんど感じない」(27.2%)を上回った。

【国家戦略特区について】

問3 2 北九州市は、平成28年1月に、国が地域を限って大胆な規制緩和などを実施する「国家戦略特区」に指定されました。これまでに、介護ロボット等を活用した「先進的介護」の実証実装や、シニア・ハローワークの設置など、「高齢者の活躍や介護サービスの充実による人口減少・高齢化社会への対応」をすすめています。そこで、おたずねします。

問3 2-1 あなたは、北九州市が国の「国家戦略特区」に指定されたことを知っていますか。



		サンプル数	知っている	知らない	無回答
全体		136	41.9%	57.4%	0.7%
性別	男性	59	42.4%	55.9%	1.7%
	女性	77	41.6%	58.4%	0.0%
年齢別	10歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	11	18.2%	81.8%	0.0%
	30歳代	20	40.0%	60.0%	0.0%
	40歳代	21	28.6%	71.4%	0.0%
	50歳代	21	38.1%	61.9%	0.0%
	60歳代	27	59.3%	37.0%	3.7%
	70歳以上	35	48.6%	51.4%	0.0%
区別	門司区	14	64.3%	35.7%	0.0%
	小倉北区	26	42.3%	57.7%	0.0%
	小倉南区	26	34.6%	65.4%	0.0%
	若松区	13	23.1%	76.9%	0.0%
	八幡東区	12	58.3%	41.7%	0.0%
	八幡西区	34	41.2%	58.8%	0.0%
	戸畑区	11	36.4%	54.5%	9.1%

北九州市が国の「国家戦略特区」に指定されたことを知っているかについては、「知っている」(41.9%)が「知らない」(57.4%)を下回った。

問33 最後に北九州市のまちづくりについてご意見等ございましたらご記入ください。

(回答より抜粋)

- コロナ禍で過密な東京ではなく地方で働きたいとの気運が若者の間で高まっていると聞きます。北九州市は受け皿になり得るのではないのでしょうか。女性と若者の定着を目指す従来からの施策に一層注力いただければと思います。
- 北九州はガラが悪いという以前の漠然とした評価は少しずつ良化しているとは思いますが。今は最も高齢化が進んだ政令都市というイメージだと思います。最も子育てに適したまち、高齢者に優しいまち、若者が生き生きと働けるまち、そして外国人が知ってるまち、そんな北九州市になれば良いなと思います。
- 北九州市は高齢者が多いので、高齢者が住みやすい街になるようにと市も努力しているのを感じています。ただ、今はコロナの影響で高齢者が外出しにくい状況にあるので、そういった市の取り組みに参加しにくくなっています。私自身も退職して家にいるので、いろんなことに積極的に参加したいのですが、今はまだ外出することに不安があります。なので、高齢者が在宅中でも参加できるような企画があると助かります。また、インターネット環境がなくスマホを持っていない人も参加しやすいものがあればいいなと思っています。
- コンパクトシティの必要性は感じるものの、今回のコロナウイルスの事態も考慮したまちづくり（都市の整備、高齢者のネット活用等）の形を探してほしいと思う。
- 素晴らしい街なので、もっともっと魅力を対外的にアピールして人を呼び込むべきだと思います。観光地とそれに付随するグルメなど。あと、黒崎が瀕死の状態。これを何とかするべき！人がやってくる魅力的な街づくりを推進して北九州を盛り上げましょう。そのための協力は惜しみません！
- 折尾地区の線路高架化の際に、地域住民に高架下に設置してほしい店舗についての聞き取り調査が行われたことは、とても素晴らしい取り組みだと心から感心いたしました。同じように市内各地でも、行政と一市民との間で意見のやりとりが容易に行われる事が当たり前に行われるようになると、「愛市心」「市をより良いものにしようとする気持ち」「市政に参加している気持ち」が多くの人により強く湧くのではないかと思います。

## IV 全体考察

本市では、平成20年12月に、市のまちづくりの基本指針である「元気発進！北九州」プラン(北九州市基本構想・基本計画)を策定し、ここで掲げられたまちづくりの目標を実現するために、各種の施策・事業に取り組んでいるところである。

当プランによるまちづくりの成果を、子育て、教育、福祉等の分野別に、市民の「満足感」、「実感」という観点から把握するため、「元気発進！北九州」プランに記載されている内容に沿って、33項目計49問のアンケートを実施した。

なお、経年変化を確認するため、前回(平成31年度)に実施したアンケートと同内容のアンケートとしている。

### ◆全体的な傾向

肯定・否定を問う質問47問中43問(91.5%)の質問で、肯定的な回答の方が多いという結果であった。

### ◆特に肯定的な回答が多いもの(肯定的な回答の割合が7割を超えるもの)

- 「医療体制の整っているまちだと感じるか」  
(肯定的回答84.6%、否定的回答7.3%)
- 「震災や風水害などの災害が発生したときのために、事前の備えをしているか。また、避難場所や避難経路を知っているか」  
(肯定的回答86.0%、否定的回答11.0%)
- 「震災や風水害などの災害が発生した時に、テレビやラジオ、携帯メール、広報車での呼びかけなど、避難に関する情報を得る方法を知っているか。また、利用したことがあるか」  
(肯定的回答87.5%、否定的回答12.5%)
- 「水道や下水道、身近な道路などの生活に不可欠な施設を、安心して利用できると感じるか」  
(肯定的回答83.1%、否定的回答5.1%)
- 「道路、公園、建物などの公共施設が、安心して利用できるように適切に管理されていると感じるか」  
(肯定的回答75.7%、否定的回答7.4%)
- 「町内会や自治会などの地域活動に参加しているか」  
(肯定的回答74.2%、否定的回答25.7%)
- 「新聞や雑誌、テレビなどで、北九州市の観光地や魅力を紹介する記事や番組などを、よく目にするか」  
(肯定的回答84.5%、否定的回答14.7%)
- 「北九州市が好きか」  
(肯定的回答86.8%、否定的回答1.4%)
- 「北九州市に住んで良かった、ずっと住み続けたいと思うか」  
(肯定的回答83.1%、否定的回答5.2%)
- 「あなたは、北九州市に誇りや自信を感じますか」  
(肯定的回答72.1%、否定的回答7.4%)
- 「車(自家用車、タクシーなど)での移動は便利であると感じるか」  
(肯定的回答76.5%、否定的回答8.8%)

- 「日常生活の中で、マイ箸・マイバッグを持参する、家庭ごみをこまめに分別してリサイクルに努力するなど、ごみを減らすための取組を行っているか」  
(肯定的回答94.9%、否定的回答5.2%)
- 「身近に自然を感じたり、身近な場所で自然に触れ合うことができるまちだと感じるか」  
(肯定的回答89.7%、否定的回答2.9%)

などについては、「感じる」もしくは「知っている」との回答が7割を超えており、市民の実感や認知度が高い分野となっている。

特に、「日常生活の中で、マイ箸・マイバッグを持参する、家庭ごみをこまめに分別してリサイクルに努力するなど、ごみを減らすための取組を行っているか」(94.9%)、「身近に自然を感じたり、身近な場所で自然に触れ合うことができるまちだと感じるか」(89.7%)などについては、肯定的な回答が約9割を占めるなど、非常に割合が高くなっている。

◆肯定的な回答と否定的な回答が拮抗しているもの

- 「町内会やNPO、ボランティアなどの市民活動に参加しやすい環境(地域の雰囲気、NPOやボランティアなどに関する情報の提供など)だと感じるか。」  
(肯定的回答33.8%、否定的回答26.5%)
- 「あなたの声が市政に届き、きちんと対応されていると感じるか」  
(肯定的回答26.5%、否定的回答30.1%)
- 「地域の商店街を利用しているか」  
(肯定的回答55.8%、否定的回答43.4%)

◆特に否定的な回答が多いもの

- 「黒崎副都心に、にぎわいを感じるか」  
(肯定的回答5.1%、否定的回答76.5%)
- 「日頃の生活の中で、大気汚染、騒音、悪臭などに関して、不快に感じることはあるか」  
(肯定的回答27.2%、否定的回答71.3%)

今回のアンケートでは、「元気発進！北九州」プランに記載されている子育て、教育、福祉等の分野について、現時点での市民の実感を確認することができた。アンケート結果を参考に、プランに掲げるまちづくりの目標を実現し、誰もが「住んでみたい、住み続けたい」と思えるまちにするため、今後も同様の内容のアンケートを毎年実施し、その動向を確認していくとともに、プランの進捗状況把握の際の参考資料として活用し、適切な市政運営に活かしていきたい。

【市政モニターに関すること】  
 広報室広聴課(TEL:582-2527)  
 【アンケートに関すること】  
 企画調整局企画課(TEL:582-2158)